令和元年度　「地域防災リーダー育成事業」
「地域防災リーダー育成のための視察」　報告

1　事業内容

①　地域防災リーダー育成のため先進地(広島原爆ドーム・平和記念資料館・北淡震災記念公園等)視察を行う。

②　広島の被爆体験，阪神淡路大震災の被災体験をどのように後世に伝えてきたか，その活動の継続や伝承の思いや方法について学ぶ。(「被爆体験伝承講話聴講」「北端震災記念公園見学」「１．１７のつどい参加」「神戸港震災メモリアルパーク見学」)

③　広島ロイヤルライオンズクラブを訪問し，１０月に寄贈いただいた防災保管庫・防災用具を活用した避難所設営･運営訓練の報告など相互交流を行う。

④　昨年に引き続き西日本豪雨で被災した倉敷市立真備陵南高校を訪問し，昨年からの復興を確認するとともに相互交流を行う。

⑤　防災教育先進校である兵庫県立淡路高校を訪問し，防災教育の取り組みを勉強（視察）し，相互交流を行う。

⑥　視察先や内容，防災教育についての事前事後指導を行い，参加生徒の防災知識と意識を高め，地域防災リーダーとして様々な場面で活躍できるようにする。

⑦　視察後に記録や報告等をまとめ，視察内容等をＨＰで公開したり，全校生徒に伝えたりする機会を設定する。

⑧　昨年度は落成記念事業としてスタート，今年度からは教育振興会予算に項目を設けて継続事業とし，本校教育活動の目玉とする。

2　目的

新校舎移転後，気仙沼向洋高校は防災教育を学校教育活動の柱として捉えている。今後，防災学習だけでなく，学校の様々な場面で活躍してもらう地域防災リーダーを育成するため訪問（視察）する。

①　防災意識・知識を向上させるために広島・岡山・兵庫の各施設や高校を視察・訪問することで，学校，地域の防災リーダーの育成につなげる。

②　今まで支援をいただいた広島ロイヤルライオンズクラブを訪問し，１０月に寄贈いただいた防災保管庫や防災用具を活用した訓練など本校の教育活動等を報告すると共に，生徒による相互交流を行う。また，昨年に引き続き今後の双方向交流について確認する。

③　昨年に引き続き，西日本豪雨で被災した倉敷市立真備陵南高等学校を訪問し，メッセージボードを渡し，生徒による相互交流を行う。

④　防災教育先進校である兵庫県立淡路高等学校を訪問し，防災教育の取り組みを勉強し，生徒による相互交流を行う。

3　視察メンバー　計９名

①　引率者：校長・岸・菅原（健）　３名

②　参加生徒　６名

機械技術科２年熊谷樹　産業経済科２年菅原優奈

情報海洋科１年齋藤颯羅・星智樹

産業経済科１年梶原愛未・佐藤瑞記

【淡路高校との集合写真】

４　日　程　令和２年１月１５日（水）～１月１８日（土）

１日目　気仙沼→一関→東京→広島→原爆ドーム・平和記念公園（見学・散策）→広島ロイヤルライオンズクラブ（御礼・交流）

２日目　原爆ドーム・平和記念資料館（見学･被爆体験伝承講話）→岡山→倉敷市立真備陵南高等学校（生徒交流）→神戸三ノ宮

３日目　１．１７の集い（黙祷･献花）→神戸三ノ宮→淡路島→北淡震災記念公園・野島断層保存館（語り部聴講・見学）→兵庫県立淡路高等学校（生徒交流）→神戸三ノ宮→神戸港震災メモリアルパーク（見学）→１．１７の集い（竹とうろう点灯）

４日目　神戸三ノ宮→新神戸→東京→一関→気仙沼

５　報　告　『参加生徒の記録･報告から』

出発を前に

出発前に参加生徒の皆さんに意気込みや思いを聞いてみました。

『自分たちは東日本大震災を経験しました。そのことを伝えていくのは当時小学１年生だった自分たちが最後の世代だと思っています。今回の視察に参加して自分たちよりも下の世代に伝えていくためにも何か得たいという気持ちがありました。』

『自分が参加することで，気仙沼市だけに限らず，全国の防災，平和に対する考えや対策，現地の人々の思いを知り，今後の生活や学校内外に発信し，生かせるようにしたいと考えていました。』

１日目　15日（水）　広島平和記念公園（原爆ドーム・平和の鐘・原爆の子の像など）
国立広島原爆死没者追悼平和記念館の見学，散策

初日はホテル到着後に原爆ドームを見学し，広島平和記念公園を散策しました。最初に世界遺産「原爆ドーム」を見学し，被爆時のままの悲惨な姿を目の当たりにしました。平和学習として「国立広島原爆死没者追悼平和記念館」「原爆の子の像」「平和の鐘」等を見学し，「原爆死没者慰霊碑」で手を合わせ，平和への思いを強くしました。

『原爆ドームを実際に見ることができ，コンクリートの柵が折れ曲がっているなど，原爆投下時の状態がそこにあり鳥肌が立った。忘れてはいけない記憶がここに保存されていることで，たくさんの人の目に触れて，二度と起きてはいけないことを強く啓発し続けているものだと思った。』

『昭和･平成･令和と様々な時間が流れていく中で，「悲惨な戦争を繰り返してはいけない」と発信し続ける，語り継いでいることは，強い思いがなければできないと感じました。』

『原爆の子の像では，日本だけでなく世界各国からの千羽鶴があった。やはり平和に対する思いは世界共通なんだと感じた。』

【原爆ドーム前にて】

【平和の鐘　平和への願い】

【目の前で見た原爆ドーム】

1日目　**15日（水）　広島ロイヤルライオンズクラブの皆様との会食・交流**

18:30より夕食を取りながら，会員の皆様と予定時間よりも長い２時間半以上にわたり交流をしました。クラブからは河内会長をはじめ８名の会員の皆様が参加してくれました。生徒はそれぞれ自己紹介と今までの支援の御礼等を伝えました。また，2年生が広島ロイヤルライオンズクラブ様に寄贈いただいた防災保管庫・防災用具を活用した避難所設営運営訓練の取組を発表し，会員の皆様からは質問やお褒めの言葉をいただきました。生徒は部活や勉強など学校生活に関して多くの励ましの言葉もいただきました。様々な話が出て大変盛り上がり，昨年以上に深い交流をすることができました。

『初めは会食と聞いて緊張していましたが，広島ロイヤルライオンズクラブの皆様が優しく話しかけてくれたおかげで，一気に緊張が解け，楽しく会食をすることができました。』

『向洋高校で行った避難所設営訓練について発表し，寄贈していただいた防災保管庫や備品を活用して普段よりレベルの高い訓練を行えたことを話しました。今後の訓練や実際の災害時に活用していきたいと思いました。』

『（広島ライオンズクラブと）このようなつながりを持つことは災害だけでなく，人生の役にも立つと思いました。』

【広島ロイヤルライオンズクラブの皆様と】

【避難所設営訓練の紹介】

2日目　**16日（木）　平和記念資料館見学・被爆体験伝承講話の聴講**

２日目午前中はリニューアルされた「広島平和記念資料館」を見学し，原爆の被害や平和について学習しました。11:00~被爆体験伝承者が原爆被害の実相や被爆者の体験等を語る「被爆体験伝承講話」を聴講しました。当日の様子や被爆者の思いが大変よく分かる，胸を打つ話でした。講話後，講師の尾崎様と交流することもでき，被災体験の継承の大切さも学ぶことができる大変貴重な機会となりました。

【平和記念資料館前にて】

『当時の写真を見ると頭に情景が浮かび涙が出そうになった。生まれて間もない赤ちゃん，婚約した２人，元気に笑っているおじいちゃんおばあちゃん達には明るい未来があったはずなのに，原爆によって一瞬に閉ざされてしまったと考えるたびに悔しい気持ちになった。なぜ今も国と国が戦争し合うのか，いつ世界平和になったと言える日が来るのかと何度も思った。』

『広島平和記念資料館を見学して原爆が落ちた直後の風景や悲惨さが伝わってきました。講話はさらに自分の心に変化を与えてくれました。話を聞いている内に，核兵器はどれほど恐ろしい物なのか，なんで子ども達は死ななければならなかったのか，真面目に考えるようになりました。』

【被爆体験伝承講話の聴講】

『被爆体験伝承講話ではその時の歴史的背景や状況，広島市民　が，被爆者が何を考えていたのか，原子爆弾や放射能について詳しくまとめて聞くことができ，あまりにも感情のこもった語りだったので，その時のことを考えただけで涙が出てきて，たくさんの人々が今の自分にも想像できないほどに苦しめられていたと考えると，一つの原子爆弾がとても憎く感じた。』

2日目　16日（木）　倉敷市立真備陵南高等学校訪問・交流

２日目14:30~倉敷市立真備陵南高等学校を訪問しました。昨年より復興は確実に進み，来月には校舎の1階の補修が終了し，仮設校舎ともお別れという話を伺いました。前半は真備陵南高校から生徒会活動の紹介と西日本豪雨の被災状況説明があり，その後本校の学校紹介を行いました。今年度は岸先生がファシリテーターとなり，「震災当日の避難行動」というワークショップを行いました。両校とも活発な意見が出て，防災意識が高まる大変有意義な交流をすることができました。昨年のようなマスコミによる取材などは今回はありませんでしたが，逆に昨年以上に密度の濃い交流を生徒同士がすることができ，最後まで真備陵南高校の生徒が見送ってくれたことが印象的でした。

『昨年から多くの住宅が復旧しているのが印象的でした。交流では「防災ワークショップ」を通して震災とは違う視点での意見（垂直避難する、ハザードマップを作る）が真備陵南高校高校の皆さんから出たので、今後の活動に生かしていきたいと思いました。」

『フレンドリーな方が多く，すぐに打ち解けたので活動しやすかった。大雨で浸水した学校の写真を見て，東日本大震災を思い出した。「バイアス」や「オオカミ少年効果」など事前に学んでいた語句を生かしながらワークショップをすることができ，とても有意義な交流ができたと思った。』

『この交流では真備陵南高校の皆さんの西日本豪雨での避難について知ることができた。特に自分はハザードマップと浸水状況がほぼ一致していたと言うことに驚いた。ハザードマップを事前から見ておいて，しっかり確認しておくことはとても重要なことなのだと思った。』

【向洋高校の学校紹介】

【防災ワークショップ】

【真備陵南高校との集合写真】

3日目　17日（金）　１．１７の集い（早朝･夜の２回参加5:46の黙祷･献花・ろうそく点灯等）

３日目は早朝５：２５より「阪神淡路大震災１．１７のつどい」に参加し，地震発生時刻に合わせての黙祷，記帳･献花を行い，震災でお亡くなりになられた方を追悼しました。朝はかなり混んでいたため，改めて当日２０：００頃神戸市役所展望台から今年度の竹灯籠の「きざむ１．１７」の字を確認した後に，２０：３０より再び「阪神淡路大震災１．１７のつどい」に参加し，竹灯籠点灯を行いました。

『阪神淡路大震災から２５年が経過した今もこのようなつどいに大勢の人が集まっていることは，復興に対する祈りや追悼の思いが強く感じられました。２５年たった今でも「忘れない」という思いを継いでいることは同じ災害を乗り越えた私たちも必要なことだと思いました。』

『竹の中にともる小さなろうそくが1.17の時に亡くなった方の魂のように表現されていた。私もろうそくをともしながら，亡くなった皆様が安らかに眠れるように遺族の方の苦しみや悲しみが早く取り除けますようにと願った。』

『このような集いなどをネットにあげることで災害を経験していない若者などにも伝承することの大切さを知ってもらい，防災意識を改めることになればと思いました。』

３日目　17日（金）　北端震災記念公園・野島断層保存館見学

３日目は淡路島に移動後，北淡震災記念公園・野島断層保存館を見学しました。米山総支配人のご配慮もあり，総支配人による震災語り部を直接伺うことができました。また，特別に我々のために案内係が付き，丁寧に説明いただきました。そのため兵庫県南部地震の発生メカニズムや震災当日の被害や様子について詳しく理解することができました。支配人の語りと案内係の説明，様々な展示物等を通じて阪神淡路大震災の被害や体験した人々の思いを深く学ぶことができました。

『館長の語り部を聞いている内にだんだんと実際にその場にいるかのような状態になりどんな物よりも説得力がありました。また，断層を見たときに大地がこんなにもずれるのかと思うほどずれていて，それほど強い地震だったのかと改めて驚かされました。』

『実際に断層を見てこんなにも丈夫で毎日踏みつけている地面が，たったの数秒でここまでずれてしまうのかと思い，驚き以上に恐怖を感じた。』

『館長さんの語り部では島民同士や消防団のコミュニティ，人と人とのつながりが３００人もの人々を救い出したこと，震災当日の午後５時には「行方不明者０」を発表することができた事など，素晴らしいことを教えていただいた。私たちも地域のイベント等に積極的に参加し，近所付き合いを深めていくことでいざという時に役に立つことができると感じました。』

【北淡震災記念公園にて】

【総支配人による語り部聴講】

【野島断層保存館の見学】

３日目　17日（金）　兵庫県立淡路高等学校訪問・交流

午後からは兵庫県立淡路高等学校を訪問し，「防災と心のケア」選択者２年生２５名と交流をしました。最初に淡路高校から「淡路クイズ」が出題され，温かい雰囲気で交流が始まりました。その後「淡路高校の防災教育の取り組み」や「阪神淡路大震災の概要」などの説明が続きました。本校からも学校紹介と防災教育の取り組みを紹介しました。続いて「防災ポシェット作り」を３つのグループに分かれて行いました。「防災ポシェット」とは小さな子どもが災害時に避難所にお菓子を持って行けるポシェットです。本校でもぜひ今後取り組みたいとみんなで話し合いました。淡路高校の生徒は皆気さくで面白く，明るく楽しい雰囲気で作業に取り組むことができました。また，その場で我々に対するメッセージボードを作成し，贈呈していただくなど，深い交流をすることができました。

【向洋高校の発表】

【防災ポシェット】

【防災ポシェット作り】

『避難所内の子ども達が活用できる防災ポシェット作りを通して，心のケアや災害時の人との心の関わりについて学ぶこととができました。』

『防災ポシェット作りは３班に分かれて行い，最初は緊張したがすぐに打ち解けることができ，それぞれの学校のことや防災活動について話したり，聞いたりすることができた。防災ポシェットはとてもいい案なので，向洋高校でもぜひ取り組んでいきたいと思った。』

『防災ポシェットは小さい子どもにも防災への意識を高めることができるためとても良いものだと思った。作り方も簡単で見た目もかわいらしいので，子ども達だけでなく，大人も夢中になって作れると思う。向洋生も防災ポシェットの作り方を覚え，保育所の子ども達や老人ホームの方々に教えながら共に防災意識を高める活動をやってみたいと感じた。』

３日目　17日（金）　神戸港震災メモリアルパーク見学

夕方から神戸港メリケンパーク内にある「神戸港震災メモリアルパーク」を見学しました。ここは阪神淡路大震災によって被災したメリケン波止場の一部をそのままの状態で保存し，見学できるように整備した公園です。また，神戸港の被災の状況や復旧の過程などを記録した映像，写真パネルなども展示され，震災のすさまじさを間近に見て，防災意識を高めることができました。

『震災当時の港をそのままの形で残していけることは「伝える」ということにとても大きな役割を果たしていると感じました。』

『道路や街灯が震災当時のまま崩れていて，その恐ろしさがよくわかった。しかし，その目の前には素敵な夜景が広がっていて復興の力を感じた。気仙沼も早く復興と発展できるようになってほしいと思った。』

『メモリアルパークは被災した状態をそのままに残っていました。崩れているなど悲惨な状態でした。このメモリアルパークは後世に伝えていくために作られたそうです。自分たちも形に残して，後世に伝え，防災意識を高めていけばいいのではないとかと思います。』

【1.17の集い（竹灯籠点灯）】

【真備陵南高校にて】

【淡路高校の発表】

【神戸市展望台から見た竹灯籠】

【神戸港震災メモリアルパーク】

【野島断層保存館の見学】

６　地域防災リーダーとして防災や防災学習として今後取り組みたいこと

□　自分たちの東日本大震災の経験をクラス内で共有する。

□　ＶＦＣなので震災に関する絵本や紙芝居などを作り，ボランティア先で発表する。

□　ＶＦＣと一緒に語り部伝承活動ができるようになるための研修に参加する。

□　ＳＮＳの活用。広島ロイヤルライオンズクラブさんからのいただいた意見にあったように新聞紙スリッパの作り方をYouTubeで紹介するなどする。

□　ネットを活用し，自分たちの取り組みや防災に関してアップして，若者に訴えかけていく。

□　学年ごとに行っている避難所設営運営訓練を生徒会中心に運営できるようにし，生徒会で本部を運営する。

□　日々の学校生活でどこが危険なのか把握し，どんな場所にいても指定された避難場所にちゃんと行くことができるようにしておくこと。校内防災マップを生徒で詳しく作って色んな場所に掲示してもいいかと思う。

□　学校外へ避難する訓練を行う。

□　災害時にどんな物を作るのか，防災グッズをどう使うのかなどの取り組みをやってみたい。

□　部活動中の訓練をもっとやってもいい。

□　気仙沼向洋高校の取り組みを地域の皆さんに発信していく。

□　地域防災リーダーが主体となって活動するイベントや訓練があっても良いのではないかと思う。

□　次年度地域防災リーダーとして視察に行く生徒に昨年行った私たちが経験や学んできたことを話す機会があればいい。

□　もう少し早くスライド説明の練習などをしていくことができれば，今より大きな学習経験を得ることができると思う。

□　全校生徒に報告するだけでなく，実際に全校生徒が自分で考え，行動することができる工夫を行いたい。

□　向洋祭を活用して，今回の視察報告や防災の取り組みを発表する。１日目の生徒公開の時には生徒向けに，２日目の一般公開の時に保護者や地域の方に発表する。

７　感想・防災に対する思い・今後の取り組み　など

◇　今回の視察では，広島・倉敷市真備町・神戸を視察し，戦争や豪雨，震災からの復興の思いについて触れることができました。この３つの都市は全て戦争や災害で被害を受けてきましたが，今は復興し，立ち上がってきたという歴史があります。その記憶を後世に引き継ぐためにそこに住む人々が伝承しているということは本当に大切なことだと思いました。特に１．１７の集いでは，震災から２５年が過ぎても「忘れてはいけない」という思いを，その場にいた人々から強く感じることができました。私たちも同じ災害を経験した者として「伝えていく」という使命をより強く感じることができた貴重な４日間でした。

◇　自然災害は事前に防ぐことができませんが，被害をできるだけ最小限で食い止めることはできます。１人１人がどういう災害で身を守るのかをきちんとイメージし，自分たちが地域の中心となり，さらなる防災に対する思いを進化させていきたいです。

◇　また新しい災害がいつ来るのかわかりません。次の災害が来る前にどれだけ準備していけるのかが大事だと思います。しかし，自分たちだけが先に行ってしまってはいけません。地域と意見を出し合いながら共に考えていく必要があると思います。

◇　私自身３．１１で被災し，あんなに怖い思いをしたというのに，年を重ねていくにつれ，震災を忘れ，地震が来ても余裕感が出るようになってしまった。しかし，今回の視察のおかげで，心を引き締めてちゃんと防災と向き合っていこうと思った。

◇　また万が一同じような震災が起きた場合には，自分から率先して行動できるようにしたいし，向洋生全員がその行動力を身に付けておけば，社会に出でもきっと役に立つと思う。今回学んだことを多くの人に知ってもらえるように，今度は「伝える」という努力をしていきたい。

◇　今回の視察で被災した場所に行って資料を読んだり，話を聞いたり，実際の現場を見たことで防災対策の大切さを強く感じた。被害の状況を後の世代に形として残して，伝えていくことで，もし災害が起きてしまったときに災害が減るだろうと思った。自分たちも防災学習や伝承館との連携などを通じて，一人ひとりの防災への意識を高められる活動をしていきたいと思った。

◇　今まで私たちはたくさんの人から助けられてきたのだと改めて感じることができた。今まで受けてきた恩を忘れずに，今後は自分たちが助ける側になり，これからの世代の人たちにたくさんのことを伝えていきたい，

◇　今回の視察で自分の防災意識の低さを痛感しました。東日本大震災から９年が経ち，当時の記憶がだんだん薄れていっています。だからこそ当時を知る自分たちが伝承しなければいけないと思います。